

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第2回市民生活・環境部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第2回市民生活・環境部会）
2 日時	令和元年11月5日 午後3時00分から午後5時45分まで
3 会場	旧市民会館 2階 第3・第4会議室
4 出席者	樋口盛光部会長、関川久子副部会長、内堀敏高委員、岡田忠夫委員 高橋伸英委員、田中利喜夫委員、藤川まゆみ委員、水出秀子委員 宮入一枝委員、宮下勝久委員、宮島博仁委員、矢島昭徳委員
5 市側出席者	山口生活環境部長、峰村資源循環型施設建設推進参事、藤澤都市建設部長、越消防部長、柏木上下水道局長、柳沢生活環境課長、佐藤資源循環型施設建設関連事業課長、土屋廃棄物対策課長、北島ごみ減量企画室長、小宮山住宅課長、馬場管理課長、三浦土木課長、嶋尾都市計画課長、竹内交通政策課長、三井建築指導課長、春原空家対策室長、若林建築課長、堀池中央消防課長、佐藤消防総務課長、宮島消防予防課長、宮原消防警防課長、城下経営管理課長、山口サービス課長、藤極下水道課長、越浄水管理センター所長、田中危機管理防災課長、松木生活環境課生活安全担当係長、大森生活環境課環境政策担当係長、両角管理課庶務係長、青井経営管理課庶務係長、星野危機管理防災課危機管理防災担当係長、茅野森林整備課森林整備担当係長、竹下土地改良課管理計画係長、田中政策企画課主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年11月11日

協 議 事 項 等

1 開 会 (柳沢生活環境課長)
2 部会長あいさつ (樋口部会長)
3 議事
(1) 分野別意見聴取 (市民意見の集約) について
・資料に沿い、柳沢生活環境課長から分野別意見聴取について概要を説明
・以降、協議
(委員) 何も審議が始まっていない時点では、団体を選ぶことは難しい。
(部会長) 事務局案を出してもらおう。または委員の所属団体ではどうか。
(事務局) 次回、お示しする。
(2) 「前期まちづくり計画」の進捗状況及び「後期まちづくり計画」に向けた方向性等について
・柳沢生活環境課長から前期まちづくり計画検証シートの見方について説明
2-1-1 豊かな自然環境の保全と活用
・資料に沿い、柳沢生活環境課長から説明
・以降、協議
(委員) バイオマスエネルギー利用製品導入支援について、ペレットストーブの補助を自治会にも出せば広まるのではないか。
(事務局) ペレットストーブの補助は県の補助事業で、市が嵩上げ補助を行っている。 県の補助事業が縮小傾向であり、市単独での補助は難しい。
(委員) 県からの補助が来る、来ないによって政策が変わるのではなく、市が必要であるとするなら予算を確保すべきである。
(委員) 防災資器材として自治会に対し、ペレットストーブやまきストーブも補助できないか。
(事務局) 防災資器材57品目に入っていない。担当課と協議したい。
(部会長) 方向性について、「縮小」を「継続」に変更することを検討していただきたい。 補助金に依存するのではなく、それを打破する手段の検討が必要である。
(委員) 森林整備について、間伐から主伐へとのことだが、今後は主伐メインとしていくのか。
(事務局) 間伐も行いながら主伐も実施していく。

2-1-2 資源循環型社会形成の推進

- ・資料に沿い、佐藤資源循環型施設建設関連事業課長から説明
- ・以降、協議

- (委員) 資源循環型施設の早期建設について、統合クリーンセンター建設までのスケジュールはどうか。
- (事務局) 環境影響評価に4年、設計・工事に3年。トータル7～8年かかる。
- (委員) それまでの間はどうするのか。
- (事務局) 現在の施設を維持しながら使用していく。
- (部会長) 後期まちづくり計画の5年間で建設目安が早期で良いか文言を検討いただきたい。現在の3つのクリーンセンターの修繕費が合わせて年間4億から5億円かかっている。今後10年間で約50億円かかることも市民に示していく必要がある。

2-1-3 地球温暖化防止対策と再生可能エネルギーの利活用の推進

- ・資料に沿い、柳沢生活環境課長から説明
- ・以降、協議

- (委員) 温室効果ガスの排出抑制について、CO2削減には電気を使わない建物、断熱を進めることが有効と考える。
具体的に“力を入れていく”という文章が欲しい。
- (事務局) 一括して省エネルギーの活用という文章にしている。
- (委員) エコオフィスうえだ第四次計画について、小中学校にエアコンが導入されるなど、大きく状況が変わるが、後期まちづくり計画にどのように反映させるのか。
- (事務局) 国の目標値に準じたものを使用しているが、施設の断熱、省エネ機器の使用により目標値を達成したいと考えている。
- (委員) 温室効果ガスの抑制は、簡単には成し遂げられない目標である。今までの目標を継続するだけでいいのか。来年度、地域新エネルギービジョン見直しに向け、総合計画できちんと書いておかなければ、地域新エネルギービジョンも目標達成が見込めない。
- (事務局) 今回は前期まちづくり計画の検証のため、次回以降で記載については検討していただきたい。
- (委員) CO2削減といっても具体的な数値で示されていない。数値がないと目標が立てられない。
- (事務局) 市としても数値が欲しい状況。電力会社が数値を出してくれない。
- (委員) バイオマス利活用について、2-1-3(生活環境課)は「継続」、2-1-1(森林整備課)は「縮小」となっている。2-1-1(森林整備課)も「継続」とするよう検討していただきたい。
- (事務局) 2-1-1(森林整備課)では、ペレットストーブに限定したことで「縮小」となった。

2-2-1 賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進

- ・資料に沿い、馬場管理課長から説明
- ・以降、協議

- (委員) タイトルに「賑わい」とあれば、観光など地域のソフト的な観点からも道路整備することを検討していただきたい。
- (委員) 三才山などトンネル3か所が無料化になるが、除雪はどうなるのか。
- (事務局) 無料化されても県管理であり、今までどおり除雪が行われる。

2-2-2 「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通の活性化

- ・資料に沿い、竹内交通政策課長から説明
- ・以降、協議

- (委員) 利用促進は日常の乗車が重要と考える。バス、電車もフリーで乗れる「フリーパス」は検討したか。前売りのフリーパスを導入すると、乗車数が増えるといわれる。ぜひ検討を。
- (事務局) 別所線は前売りの乗車券を販売しており、バスは運賃低減を実施中である。
フリーパスについて、今後検討していきたい。

(委員) 鉄道、バス、タクシーの相互交通政策を一緒になって話す場が必要。市が主導して実施していただきたい。

(事務局) 災害時の対応を見据えた中で、それぞれの団体との連携が必要であると感じている。

(委員) 観光面からもキャッシュレスの導入を検討していただきたい。

(事務局) 県でも広域的なパスを考えているので、市内だけでなく、広域的に検討していきたい。

(委員) 台風により災害が発生したが、後期まちづくり計画には反映されないのか。

(事務局) 北陸信越運輸局に災害による計画変更を問い合わせ中である。回答により、今後変更になる場合がある。

(委員) ノーマイカー通勤ウィークを市で積極的に取り組めば、CO2削減にもつながる。

(事務局) CO2削減を前面に出しながら、今後の活動に取り組みたい。

(委員) 2-2-7 地域防災力の向上と災害対応能力の強化については、台風災害により変わった部分がある。時間をかけて審議していれば答申までに間に合わない。協議はどのくらいのレベルで行うのか、それにより、時間のかけ方が違う。

(部会長) この部会だけ別に実施していく方法もある。掘り下げて議論していく時間はない。どこかで線を引いて、市に意見を伝えたということで了解していただきたい。

(事務局) 中間答申の期日は決まっているので、その間に部会の回数を増やすことは可能。

(部会長) 次回(12月17日)までの間にもう1回開催する。担当部署の職員だけ集まってもらえばよい。

(委員) 時間短縮のため、質問を事前に集約した方がいい。

(事務局) 今月中に開催するよう、日程調整する。

(委員) 災害については、新たな大きなテーマが生まれたと思う。

(3) その他

- ・1月の開催日変更について柳沢生活環境課長から説明

開催日 令和2年1月22日(水)午後1時30分から 旧市民会館 第3・4会議室

4 事務連絡

- ・12月の開催日について柳沢生活環境課長から説明

開催日 令和元年12月17日(火)午後1時30分から 旧市民会館 第3・4会議室

5 閉会(樋口部会長)

(閉会時間 午後5時45分)